

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は、平成13年度に商業高校から総合高校に改編し、昨年度、扇町総合高等学校として、最後の入学生を迎えた。総合学科として6つ（令和2年度入学生からは4つ）の系列と多くの選択科目を設定しており、生徒のニーズに応じた多様で柔軟な教育活動を行っている。主体的に学習に取り組むことで個性を伸ばし、将来社会に貢献できる教養と技能を備える人材の育成をめざしている。

## 1 系列の特色活かした学習

大阪文化・環境科学・マーケティングデザイン・会計ビジネスの各系列の特色を生かし、進路選択と結びつけた確かな学力を育成すると共に、今後も時代の変化やニーズに応じた学習形態や内容を実施する。

## 2 キャリア教育の推進

外部講師による実業教育講話、校外体験学習などを通して進路選択に繋げていく試みが功を奏し、生徒の多様な進路選択への対応が成果として表れている。現在、大学・短大・専門学校への進学者が毎年80%を超えていることを踏まえ、進学に向けた進路指導体制をさらに充実させ、教職員の専門性を生かしながら学習活動の大きな柱として引き続き取り組む。

## 3 確かな基礎学力の定着

生徒がそれぞれの進路希望をかなえ自己実現を図るためには、確かな基礎学力を定着させることと並んで、興味・関心を広げる発展的内容について探究し、深く理解する学びが不可欠である。家庭学習の習慣を定着させ、生徒の自学自習を促す段階的かつ継続的取組を行う。

## 4 「21世紀型スキル」の習得

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、思考力・判断力・表現力を育成することが柱の一つとなっており、本校においても、生徒が身に付けるべき所謂「21世紀型スキル」を育成するための授業展開を行っている。

## 5 生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくり

積極的な情報発信は欠かせない。学校ホームページや体験入学の充実など様々な手法を駆使しながらPR活動に努める。また、地域と連携を深め、教育的・社会的資源としても貢献できる学校づくりをすすめていく。

## 2 中期的目標

## 1 主体的な学習に向けた授業改善の推進

- (1) 総合学科の系列の特色を活かした学習目標を明確にした教育実践を展開する。
- (2) 各教科において「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。
- (3) 「扇総生に身に付けてほしい力」として、①挑戦力、②探究力、③対話力、④発信力、⑤想像力、⑥自他肯定力、⑦キャリアプランニング力を設定しすべての教育活動を通じて、それぞれの力の育成を総合的に行う。
- (4) 学校図書館の利用促進を図ると共に、生徒が主体的に読書活動を行い、発信するなどの機会を増やす。また、学習できる環境づくりを実施する。

## 2 自己肯定感の育成とキャリア教育の推進

- (1) 進路保障のための組織的な補習体制を構築し、主体的な学習習慣の定着を進め、進学実績へと繋げる。また、個に応じたきめ細かい指導・支援を充実させる。令和6年度には大学・短大・専門学校の進学率（実績値）を85%にすることをめざす。（R1 71.5% R2 78.1% R3 83.0%）
- (2) 社会人としての規律を守り、マナーやモラルについて考えて行動できる生徒を育成する。
- (3) 生命や人権を大切にす精神を養うとともに、自他を尊重しながら、より良い学校生活を構築するために、協力して部活動や生徒会活動等に取り組む態度を育成する。

## 3 安全で安心できる学校の実現と社会の多様性を認識し、「人・社会」と繋がる力の育成

- (1) 生徒の健康観を高め、社会の一員として公衆衛生の意義を理解し、校内外の美化や安全に向けて積極的に行動する態度を養う。
- (2) 地域との交流を深め、積極的な情報発信により中学校・保護者への広報活動を一層強化する。
- (3) 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図り、月80時間を上回る教員を0名にする。（令和3年1月現在延べ6名）

## 4 ICTの活用と整備

- (1) 次世代の教育の情報化に向けて、ICTを活用した指導法などの教育内容の開発を行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】総合学科の特色を活かした授業を展開し、企業と連携した商品開発、マーケティング実践授業を実施。興味関心を高め、分かる授業の実践を目標に授業アンケート2回、面談3回、授業見学1回、ICTを活用し生徒保護者から学校教育自己診断アンケート1回実施し、結果のフィードバックを行い、今後の改善を図る。</p> <p>【進路指導等】キャリア教育推進として、3年生は担任・進路指導部中心に全教員で面接指導を行い、教科補習や外部講師を招聘し対策を講じ進路実現に結びつけた。また、2年生は個別面談、進路ガイダンスなどを実施し進路意識の向上に繋げた。</p> <p>【学校運営】ICT活用し校務運営を活性化・効率化し、職員会議のペーパーレス化や教職員ICT研修会も実施し肯定的回答は100%である。危機・安全管理では、天満警察署と連携し自転車通学生徒対象に交通安全指導を各学年実施、防災教育では北区役所、自治会、消防署と連携し、消防設備点検、備蓄品の施設点検を実施した。11月15日LHRにて火災及び災害避難訓練を実施できた。また、開かれた学校づくりとして、吹奏楽部が地域の各種イベントに参加。地域学校説明会、PTA協議</p>	<p>南・西・扇町総合高校は再編により桜和高校と併置されていることから、学校運営協議会は桜和高校と同一。</p> <p>第1回（7月6日）OR4年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教育推進について、現代は小学校の低学年から進められているが、「漢字が覚えられない」「国語力が心配など」負の側面もよく聞いている。今後の取り組みとしてICT教育を進めるのであれば、そのような点を配慮した教育を進めなければならないのではないか。</li> <li>・4校の新しい学校については、今後はもっと地域と連携し、校舎貸し出しや商店街とコラボなどの地域連携した取り組みを進めてもらいたい。</li> </ul> <p>第2回（11月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習について、従来の取り組みとこれからの学習の相違点を伺いたいと意見あり。</li> <li>・小中連携教育については、堀川小学校との連携のように北区中学校との連携にも取り組み、来年度の取り組みを検討する点からも北区中学校校長会に出席いただいて直接説明をお願いしたい。</li> <li>・教育文理学科については、今後教員志望生徒が増加してくることを考慮すると、高校での働き方改革が問題となってくるのではないか。</li> </ul>

## 府立扇町総合高等学校

<p>会や中学校の説明会は全て参加した。北区社会福祉協議会と連携し、北区地域ボランティアに参加した。</p>	<p>第3回（2月20日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度学校経営計画最終評価について、各分掌からの今年度の取組と達成状況がよく理解できた。今後も、継続した取り組みに期待したい。</li> <li>令和5年度学校経営計画について、本年度の反省を踏まえ、取り組んでほしい。生徒・保護者からの要望についてもきめ細やかな対応と、学校からの情報発信に積極的に取り組んでほしい。また、学校教育自己診断でのアンケート調査で肯定的回答の「Aよくあてはまる」「Bややあてはまる」それぞれの比率も見ながら、学校の取組について検討をすすめてほしい。</li> <li>保護者への情報発信は、ホームページのより一層の充実や保護者メール、その他のアプリ等も活用しながら、積極的な発信が必要である。</li> <li>西高校や南高校は新たな学校となったこともあり、新校舎や地域的なことを考慮しながら生徒の防災意識の涵養に努める必要があるのではないか。</li> </ul>
--	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3 年度値]	自己評価
1 主体的な学習に向けた授業改善の推進	(1) 系列としての独自性を確立し、系列行事を充実させるとともに、進路目標に応じた学力の獲得を支援する。	ア、授業で扱う学習内容の精選と補習体制の相乗効果で、大学など専門教育につながる資格・検定取得率の向上を図る。	各教科において資格・検定合格率を向上させる。[R3: 危険物取扱者乙種4類 40%、全商簿記2級 96%, STEP 英検準2級 31%]	専門教育においては、資格・検定合格率をほぼ維持できた。○ 危険物取扱者乙種4類 [R4 50%] 全商簿記2級 [R4 93%] STEP 英検準2級 [R4 47%]
			総合学科に関するアンケート「選択した科目で、自分の進路選択につながるものが十分あったか」に対し「当てはまる」の回答を85%以上にする。[R3 82%]	系列による選択科目を学習し、進路選択につながったという肯定的回答が目標を上回り目標達成できた。◎ [R4 86%]
			「7つの力に関するアンケート」において「将来を見据え、何事に対しても挑戦しようとする態度が身についた」の回答を90%以上にする。[R3 87%]	肯定的回答が目標を下回ったため、来年度に向け指導内容で新たな取り組みを行う。△ [R4 76%]
		イ、定期考査前には土曜自習室として会議室を開放し、常に進路を意識した学習ができる環境を確保する。	年5回の土曜自習室を行う。[R3 5回]	南・西・扇町総合の再編により、一斉土曜自習室は実施していないが各校で対応した。自由に自習ができるようオープンスペース等の配置を行い、自習の利用人数が増加した。△ [R4 0回]
		ウ、教員と生徒、および生徒同士で双方向での意見交換や体験型学習を積極的に取り入れ、生徒が主体的に発表を行えるような知識を習得できる授業を実践する。	系列の特色や教科の専門性を生かし、生徒が企画・運営する機会を年1回以上設ける。また、校外で年1回以上発表する。 [R3 企画・運営 各系列1回、校外発表 各系列0回]	系列の特色ある取り組みとして、校内では日常の授業のなかで生徒が主体的に発表する機会を設けたが、校外では新型コロナ禍で実施できなかった。○ [企画・運営発表各系列 R4 1回] [校外発表各系列 R4 0回 R3 0回]
	エ、各系列の特色をしたフィールドワーク等を実施するなど、系列独自の様々な取り組みを行うとともに、課題等を発見し、発信する力を養う。	系列におけるイベント等を年1回以上実施する。[R3 大阪文化2回、環境科学1回、マーケティングデザイン2回、会計ビジネス1回]	各系列の特色ある体験授業やフィールドワーク等を昨年度以上に実施し、目標達成ができた。◎ [大阪文化 R4 3回] [環境科学 R4 1回] [マーケティングデザイン R4 3回] [会計ビジネス R4 5回]	
	オ、進路指導部や各学年とも連携して課題を提示し、自宅学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。また、補習等を通して大学入試にも対応できる学力の向上をめざす。	学年別に外部模試を受検する機会を年2回以上設ける。 [R3 1年0回、2年1回、3年5回]	進学指導では多くの外部模試を受験し、学習意欲を向上させ学力向上を図る目標が達成できた。◎ [2年 R4 3回] [3年 R4 13回]	
	(2) 各教科において「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点に立	ア、本校生に必要な知識及び態度を再度確認し、それを授業で実現していくための教育内容を検討する。	教科主任会を年3回以上開催する。 [R3 3回]	新学習指導要領における各教科の評価の検討など教科主任会を実施し、目標を大きく上回った。◎ [R4 6回]

## 府立扇町総合高等学校

	<p>った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。</p>	<p>イ、教材を精選、工夫することにより、学習に取り組む意識を引き出し、基礎学力の定着を図る。また、教科によっては、習熟度別にクラスを編成し、基礎学力の向上をめざし、発展的内容に自ら挑戦する意欲を身につけさせる。</p>	<p>月1回程度の課題や確認テストを実施する。[R3 月1回]</p> <p>総合学科に関するアンケート「総合学科の取り組みで、自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」に対し「当てはまる」の回答を85%以上にする。[R3 84%]</p>	<p>月1回の課題や確認テストを実施し、学習意欲の向上を図り目標が達成できた。</p> <p>○[R4 月1回]</p> <p>自主性を伸ばす取り組みについてはさらに検討し、目標達成に向け継続的な指導を行う。△</p> <p>[R4 79%]</p>
	<p>(3) 統合に伴う作業を円滑に行い、蔵書の精選・管理と生徒および教職員が利用しやすい図書館運営を推進する。</p> <p>図書委員会の活動を活発にし、生徒の責任感、主体性、発信力等を育成する。</p>	<p>ア、図書委員会活動をさらに活性化させ、カウンター業務や図書館整備など図書館の利用促進についても、生徒が主体的にアイデアを出して取り組めるようにする。</p> <p>図書委員が中心となって読書会を企画し実施する。</p>	<p>各クラスの図書委員に図書当番を割り当て、読書会を年2回以上実施する。</p> <p>[R3 誌上ビブリオバトル 1回、読書会 0回]</p>	<p>各クラス図書委員を選出し、自主的な図書委員会を実施した。日常の図書館貸出業務や新聞発行など取り組み、活発な委員会活動を行い目標達成できた。○</p> <p>[R4 ビブリオバトル 1回 読書会0回]</p>
2 自己肯定感の育成とキャリア教育の推進	<p>(1) 社会人としての規律を守り、マナーやモラルについて考えて行動できる生徒を育成する。</p>	<p>ア、朝の校門指導等、学校生活全般を通して、あいさつ、言葉遣い、身だしなみの大切さを意識させる。また、規範意識を理解させ、より安心安全で平和な学校づくりをめざす。</p> <p>体育祭、文化祭等を通して、生徒一人一人が主体的に行動する機会を増やし、生徒会活動をさらに活性化させる。</p> <p>また、社会に貢献できる人材として成長させるために、自らの意見をしっかりと伝える発信力の育成をめざす。</p>	<p>遅刻者数(教務遅刻者数)について前年度を下回るようにする。</p> <p>[R2 延べ496名 R3 延べ410名]</p> <p>生徒会執行部を中心として、行事の企画・運営を行えるような機会を年3回以上実施する。[R3 3回]</p> <p>「7つの力に関するアンケート」「キャリアプランニング力が身についた」の回答を80%以上にする。[R3 76%]</p>	<p>遅刻者数を減少させ目標達成できた。○</p> <p>[R4 381名 R3 410名 R2 496名]</p> <p>生徒会執行部中心に学校行事を企画・運営し、主体的な活動を3回実施し、目標達成できた。○ [R4 3回]</p> <p>「よりよい社会」を作ることに貢献する社会の一員となることを目標とし、自らの現在と将来、学校と社会とを結びつけ、自らの人生を構築する力(キャリアプランニング力)を身につける取り組みを充実させる工夫が必要である。△</p> <p>[R4 72%]</p>
	<p>(2) 自己理解を深めることで進路意識を高め、より主体的な進路決定ができるよう支援する。</p> <p>また、早期より進路実現をめざした学習が行えるよう、支援する。</p> <p>さらに、卒業後の進路を見据えた上で「生徒に身につけさせたい能力」を身につけられるような指導を考える。</p>	<p>イ、生徒の進路希望に対応した説明会や講義、講演会を行う。1年次には大学等への見学会、2年次には分野別模擬授業を、3年次には校外において大規模な進路説明会を実施する。</p>	<p>3年間で3回の分野別説明会を行う。</p> <p>[R3 5回]</p>	<p>各学年の進路希望に応じたガイダンス、進路説明会、大学見学、分野別説明会・模擬授業、大規模な外部説明会への参加など様々な機会を設け目標達成することができた。◎</p> <p>[R4 9回]</p>
		<p>ウ、各学年に対応した外部模試や講習会を数多く開催し、生徒の進路実現のサポートを行う。特に面接指導や小論文指導などでは本校教員だけでなく外部講師を招いた指導も行う。</p>	<p>1・2年次では年1回以上の実力テストを実施する。[R3 1年3回 2年2回]</p> <p>2・3年次で合計2回の小論文添削指導を行う。[R3 2年3回 3年1回]</p> <p>3年次には面接試験を受験する生徒に対し、2回以上の個別指導を行い、学力検査を受検する生徒には2回以上の模擬試験を受験するよう指導する。</p> <p>[R3 平均5回]</p>	<p>2・3年で実力テストを実施し基礎学力の向上に努めた。◎ [R4 3年2回 2年2回]</p> <p>2・3年で小論文指導を実施し作成能力の向上を図れた。◎ [R4 2年3回 3年1回]</p> <p>3年次に面接練習、模擬試験を目標どおり実施し、進路実現につなげた。◎</p> <p>[R4 平均6回]</p>
	<p>エ、保護者を対象とした進路説明会などを実施し、生徒だけでなく保護者に対しても進路意識の向上を促す。特に保護者に対しては、奨学金制度の説明を含めた学費の問題に力を入れる。</p>	<p>2年次、3年次にそれぞれ1回、保護者対象進路説明会を行い、生徒の進路意識の向上に対し協力を促す。</p> <p>[R3 2年1回 3年0回]</p>	<p>各学年で保護者対象進路説明会を実施し目標達成できた。○</p> <p>[R4 1年1回 2年1回 3年1回]</p>	
成多 3 安全性を認識し、「一人・社会」と繋がる力の育成	<p>(1) 安全で安心できる学校の実現と、「よりよい社会」を作ることに貢献する人材の育成をめざし、その基盤となる生活習慣と態度を身につけさせる。</p>	<p>ア、清掃活動や、環境委員の清掃場所巡視の活動、呼びかけにより、環境を守る意識の醸成を高める。</p>	<p>環境委員会としての清掃場所巡視を月に2回行う。</p> <p>[R3 月2回]</p>	<p>保健委員会が清掃場所の巡視を実施し、環境美化に努めた。○</p> <p>[R4 月2回]</p>
		<p>イ、生徒が主体となる活動を通じて健康に関する意識を高め、安全、安心できる学校になるようなリーダーの育成を行う。</p>	<p>学校保健委員会を年1回開催する。</p> <p>[R3 1回]</p>	<p>学校保健委員会を目標どおり開催できた。4校合同の実施となり、リーダー養成を継続する。○</p> <p>[R4 1回]</p>
		<p>ウ、各系列に応じて時事問題や視聴覚教材を取り入れることで、さまざまな視点で事象を捉える力を養う。</p>	<p>外部団体が実施する作文等などについて年1回以上応募する。</p> <p>[R3 1回]</p>	<p>系列や教科指導で外部コンクールなどに応募し、目標を大きく上回り学習のモチベーション維持ができた。◎</p> <p>[R4 5回]</p> <p>大阪教育大学作文コンクール 最優秀賞</p>

## 府立扇町総合高等学校

		エ、部活動を中心に、地域の各種イベント等へ積極的な参加を行い貢献することで、さらに「地域に根つき、密着した学校」として認知されることをめざす。また、北区で唯一の公立高校として北区役所との連携を深め、北区はもとより大阪市全体に貢献できるよう、ボランティア清掃活動などの諸活動も推進する。	地域の依頼に応え、積極的に参加する。すべての部活動の中から年間8回以上の活動を行う。	「地域に根つき、密着した学校」として、部活動やボランティア活動など行うことができ目標達成できた。◎ 吹奏楽部が地域の各種イベント等への積極的な参加を行った。[R4 20回] 新規事業として北区社会福祉協議会と連携し、地域ボランティア活動に参加することができた。[R4 17名参加]
	(2) 生命や人権を大切に する精神を養うとともに、 自他を尊重しながら、より 良い学校生活を構築する。	ア、いじめを許さない学校づくりをめざす。いじめについて考える日を設定し、講話などを行う。また、いじめアンケートなどを通して生徒の実態を把握し、適宜いじめ防止委員会を開催する。	いじめアンケートを年3回実施する。 [R3 3回]  「7つの力に関するアンケート」「自他肯定力が身についた」の回答を80%以上にする。 [R3 78%]	いじめアンケートを各学期に1回実施し、いじめのない学校づくりに今後も取り組む。○[R4 3回] 自他ともに尊重し、自ら自信をもって物事にあたり、達成感や成功体験を積むなどの行動ができる力(自他肯定力)が身につくような指導内容を工夫する。△ [R4 71%]
		イ、講演会などを通じて、生徒がさまざまな人権問題について感じ、考える機会を設ける。 ・教職員の人権意識向上のために他の分掌とも連携し、より効果的な行事の在り方をめざすとともに、教職員向け人権研修の企画運営を実施するために、情報収集と外部調整を行う。	生徒向けおよび教員向けの人権講演会を年1回実施する。  生徒向け[R3 1年1回 2年1回 3年1回] 教員向け[R3 1回]	生徒向け人権講演会・映画を予定どおり実施し、人権意識を醸成するという目標を達成できた。○ [R4 1年1回 2年1回 3年1回]  教職員向け人権講演会・映画を目標どおり実施し、人権講演会は2回実施できたことで、人権教育への取り組み方を理解できた。◎ [R4 2回]
		ウ、校外の人権研修会に参加するなど、さまざまな人権に関する新しい情報を収集し、委員会で共有・活用する。	・校外研修に1回以上参加し、伝達講習等で、内容を共有する。[R3 研修3回] ・校内の人権教育委員会を年間2回以上開催する。[R3 委員会1回]	人権教育担当者、新任教員、管理職など校外人権研修会に参加し、目標を大きく上回り人権教育の基本知識を養った。◎ [R4 10回] 校内人権委員会を予定どおり実施できた。(◎) [R4 3回]
	(3) ノー残業ダイの徹底	ア、時間外勤務時間の削減を図るため、教職員への啓発と意識改革を行う。	月80時間を上回る教員を0名にする。 [R3 延べ6名]	時間外勤務の削減を啓発し、月平均80時間以上の教員を減少させる取組みを継続する。△ [R4 4名]
4 ICTの活用と整備	(1) ICT機器の整備を行うとともに、次世代の教育の情報化に向けて、ICTを活用した指導を推進するとともに、生徒のプレゼンテーション能力の育成をする。	ア、自分の考えや主張を表現するための語彙力や表現力をつける。またICT機器を活用し、校内外で積極的にそれらを発信する機会を設ける。	近畿地区総合学科研究大会、英語スピーチコンテスト、生徒商業研究発表大会等の校外での大会で発表を行う。 「7つの力に関するアンケート」「発信力が身についた」の回答を75%以上にする。 [R3 70%]	今年度、スピーチコンテストに2回参加し、大阪府英語弁論大会4位の入賞を果たした。発信力が身につくような取り組みをさらに実施する。△ [R4 63%]
		イ、ICT教材を積極的に活用し、暗記偏重にならないように体験を通して自ら思考する学習を促す。 さらに、ICT機器を活用し、生徒同士が適切に表現したり伝えあったりすることができる、対話力や発信力の向上につなげる。	グループワークなど生徒による協同学習を実施する。また、プレゼンテーションやディベートを行う。  「7つの力に関するアンケート」「探究力が身についた」の回答を80%以上にする。 [R3 79%]  また、「対話力が身についた」の回答を90%以上にする。 [R3 87%]	授業において自分の考えをまとめさせ、発表する機会を設ける目標を予定どおり達成することができた。○ [R4 肯定的回答 78%] 「探究力」を身につけるための各授業の工夫や取り組みをさらに進める必要がある。△ [R4 70%]  多様な価値観を持つ者同士で、情報や意見を交換し、傾聴し、協働して課題を解決しようとする力(対話力)が身につくような授業を心がけ、目標達成に近づきつつあるが、さらに工夫し展開する。△ [R4 84%]

## 府立扇町総合高等学校

		ウ、既存の ICT 機器の改善を図り、生徒の学習環境の整備を充実する。	ICT 機器・視聴覚機器の改善を行うための検討を年3回以上実施する。〔新規〕	生徒が1人1台端末を効果的に活用し、学習環境の改善を図り、教職員の校務運営を ICT 化し、職員会議のペーパーレス化や教職員研修会実施など ICT 改善への取り組みを行い目標達成できた。◎ [R4 教職員研修会6回実施 教職員アンケート肯定的回答率100%]
--	--	-------------------------------------	--	---